

鎌倉市における戸別収集のあり方について方針（素案）の説明会概要

令和6年3月3日（日）14時30分から15時30分 鎌倉芸術館集会室

参加者 33名

- 1 ごみ減量対策課担当課長挨拶
- 2 方針（素案）の説明
- 3 質疑応答

Q HPに掲載のあるnoteとはどういうものか。記事にあったアンケートはどのくらいの人数に聞いたのか。

A 市で行っているブログのようなSNSの取り組みである。いろいろな記事を発信しているが、そのうちの一つとして戸別収集について発信し、令和4年度に実施したアンケート結果を掲載した。アンケートは、廃棄物減量化等推進員や自治会町内会説明会に参加された方など約500名に回答いただいた。半数以上の方に戸別収集について賛成の回答をいただいた。

Q アンケートの回答者が500人では少ないのでは。一部の意見を民意として捉えないでいただきたい。

A おっしゃる通り、500人は回答として少ないので、パブリックコメントや説明会を実施している。

Q 年金世帯の収入は上がらないので、物価高の影響など負担が増えるのでは。

A 物価高ではあるが、県内他市でも戸別収集を開始している。今取り組まないと車両や収集員を用意できないと考えている。

Q 77,000世帯に共同住宅は入っているのか。

A 入っている。

Q なぜ共同住宅を戸別収集から外したのか。共同住宅も玄関前収集をしてほしい。

A 共同住宅の廊下は住民の共用部となっている。もし玄関前に排出し、カラスに荒らされたら、誰が掃除をするなど共用部は取扱いが難しい。また、セキュリティの関係上、収集員は共同住宅内に入ることも難しい。マンションによっては、24時間出しを可能にしているところもあるので、それが変更になるとサービス低下に繋がる恐れもある。

Q 共同住宅について。転勤の方が多いとその方たちに悪意はないが、クリーンステーション（以下、CSという。）の管理や分別をわかっていないことが多い。戸別収集品目専用CSを設けると記載があるが、CSがない共同住宅にはどうアプローチするのか。

A 共同住宅の所有者に戸別収集品目専用 CS を設置していただくよう市からアプローチする。

Q 動物被害は各家庭によって対策方法が変わるので、現在よりも増えるのでは。CS を金属製にすればよいのでは。

A モデル事業や他市では動物被害は減少した。

Q 戸別収集でも CS 収集でも分別をやらない人はやらない。ごみの分別の周知を図るべき。

A CS では他地区の方や観光客がごみを出してしまう現状がある。戸別収集になり、各家庭で排出することになると、分別ができていない方に個別に指導ができるようになる。

Q ちゃんと分別している市民は多い。一部の分別ができていない方のために戸別収集にするのは違うのでは。分別ができていない CS や地域に個別にアプローチすれば一時的なお金で済むのでは。

A 組成調査にて、燃やすごみの中に約 24%資源物が含まれていることが確認されている。戸別収集になると誰が出したごみなのかが明確になるため分別意識が働きごみの減量に繋がると考えている。

Q 資料には、メリットばかり書いてある。現状でもポイ捨てが多いので、戸別収集になったら各家庭にごみを捨てられるのでは。

A 今後はデメリットも案内して、その解決策も示していく。

Q 風でゴミ箱が飛んだらどうするのか。

A ゴミ箱には、石や水を入れたペットボトルを入れていただくことを想定している。他自治体では、バケツをひもで縛っているところもあった。

Q 共同住宅の定義は。2世帯住宅はどうなる。

A 建物ごとが基本の考え方となる。アパートの排出場所は1か所、2世帯住宅も1か所を想定している。

Q CS を継続利用したい場合は。

A 戸建住宅で CS を利用したい方は、その CS を利用している全員の承諾があれば継続して利用できる制度を設けることを検討している。

Q 夜間にごみを排出すると、特に夏は臭いで大変なことになる。資料の P30 で夜間に出

すことが可能と記載があるが、これを書かれると CS でも夜間に出す人が出てきてしまう。

A CS は夜間に排出すると動物被害に合うことが想定されるため夜間排出は禁止だが、戸別収集は蓋つきのバケツに排出するなどの動物被害対策をしている場合は夜間に排出可能と考えている。

Q 共同住宅の住民はごみの出し方が悪いことが多い。

A 戸別収集品目専用の CS を設置していただくので、そこで管理していただくことになる。

Q 方針素案に「戸別収集の実施を望む声もある状況です。」との記載があるが、何件そういった声があるのかデータで示していただきたい。

A 令和 4 年度に実施したアンケートでは 548 名の方から回答をいただき、うち 293 名が戸別収集に対し賛成もしくはどちらかといえば賛成というご意見だった。ほかに示せるデータはないが、自治会町内会単位で実施している説明会でご意見をいただいている。

Q 高齢者のために戸別収集を実施するなら費用がかかりすぎている。希望する自治会町内会のみで実施すれば良いのでは。

A このまま CS を継続すると若者に CS の維持管理などの負担を強いることになる。そういったことを軽減することも目的に戸別収集の導入を検討している。

Q 資料 P9 に記載のある CS での課題を各家庭に負担させることになるのでは。

A そういったことはないと考えている。CS を継続することでこのような課題が残るので、戸別収集にすることで負担を軽減したいと考えている。

Q ごみの減量はユーザー側だけでなくメーカー側の対応もないと減量につながらないのでは。

A 社会的にもその流れのため、市としてもメーカー側に働きかけをしていきたいと考えている。

Q 資料 P19 のコストについて、燃やすごみが戸別収集になり減量が進めば有料袋売り上げが減少し、歳入も減少するのでは。

A 減少すると思われるが、資料は試算レベルのものであるため、その点は反映していない。

Q 家庭系有料袋の歳入 3 億円の使い道を教えてほしい。

A 指定収集袋の作成流通などの 1 億円。減量・資源化に係る経費に 1 億円。一般廃棄物処理施設建設基金の積み立てに 1 億円。その中の 1.9 億円を戸別収集に充当先を変更する。

Q 階段の上にある家はそこまで収集員が来てくれるのか。

A 一般の方も使用する道であれば、収集員が階段の上まで行って回収をする。

Q 収集時間、車両の増加や収集員の業務が大変になると考える。

A 実際に収集を経験しているベテラン職員が無理のない範囲で収集ルート等を設定しているので心配はないと考えている。